

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.84

進化したゲーム機器と 低年齢化したユーザー



NET情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

新型ニンテンドーSwitch2がこの夏、一般家庭にも普及し出した。6月から発売開始されたが、当初は抽選や会員登録等、いくつかの条件が設けられていたが、夏休みに入ると購入する家庭も増えてきた。二学期になり訪問する学校で毎回Switch2の所持を確認しているのだが、特に小学校1、2年生の所持率が高いように感じる。旧型のSwitchはすでにきょうだいの人数に応じて2〜4台と複数台広まっているため、Switch2は中学生は買ってもらえないよう、クラスで2人程度しか所持していない。まだ買ってもらえない低学年のいる家庭から広まり出したように思う。

ニンテンドーのゲーム機で育った親世代は、当時の楽しかった思い出もよみがえる端末だから、わが子にもと思われるだろうが、当時のゲーム機とは全く違う。WiiFiの普及、SNSの一般化に伴い、あらゆる機能が進化しているのだ。これまでのゲーム機感覚で買わせるには少し不安が残る。ニンテンドーのホームページには「保護者の方へ」としてペアレンタルコントロールの説明があるが、このページを見ずに「ニン

テンドーみまもりSwitch」というアプリで許可設定をし、早速ゲームを始めている家庭が多いのではないだろうか。

Switch2の進化とは、何よりチャット機能だ。これまでのSwitchではできなかったチャット機能は、12人まで音声で会話ができる。USBカメラがあればビデオチャットも可能だ。今までの端末であれば、接続や設定が複雑で中学生ぐらいにならないければ操作ができなかったが、Switch2は「C」ボタンを押すだけで話せる。いったんアプリで許可を与えてしまえばチャットはこれまでのように外部アプリを必要とせず簡単に開始できる。

開発の段階で、同じ部屋に集まってそれぞれが違うゲームをしてワイワイ楽しむイメージでスタートしているようで、離れていてもいっしょに遊べる楽しさは素晴らしいのだが、相手を選ばない子ども達はリスクでもある。

子ども部屋でWiiFiを使い、誰とでも遊べる、話せる、テレビ電話ができる環境は、言い換えれば子ども部屋が一番危険な場所になりかねない。

オプションのカメラがあれば相手に部屋の様

子も見えてしまう。異様に子どもが好きだという人物との接点になりかねない。ストーリーは子どもにも増えている。画像が簡単にAIを使って思いもよらない姿へと加工される時代なのに、親はこの進化に気づいているのだろうか。

LINEのトラブルも小学生低学年に起き始めている。知らない人からLINEが来たとか、ゲームの相手からLINE教えてと言われたという事案も増えている。ストーリーはあらゆる端末で相手を特定している。Switch2に初めて導入された「おすそわけ通信」はゲームソフトを所有している親機が4人までソフトを所有していない人に提供できる。LINEやInstagramでDMを送られ、誘われることも想定できる。Instagramの年齢確認はAIを使用して13歳から18歳を特定し、規制をかけ非公開アカウントに変えるなどの規制が始まったが、13歳以下は対象となっていない。そもそも13歳以下は使用していない前提なのだ。自分のスマホで遊んでいるのなら規制の対象とAIも判断するだろうが、タブレットのように家族も使用する端末や、解約したスマホでの利用ならAIの判断も規制外になってしまうだろう。

ネットゲームで行われるチート等の違反行為は犯罪として扱われる事案が大変増えている。この分野に今後小学生が関わりだすのだから子どもの問題ではなく、家庭の問題として意識する必要がある。

ニンテンドーのホームページにある「保護者の方へ」はリスクの部分が書いてある。いい人しかゲームができないという機能は存在しないのだから、学童期のいる保護者の方は、今一度ネット環境を見直してほしい。